平成 30 年度　卒塾式のご報告　2019.3.9（土）

式辞
理事長　佐野　尚見

皆様　おはようございます。
本日は、大変ご多用中のところ松下政経塾の平成 30 年度卒塾式にご出席賜り、まことにありがとうございます。
また日頃より当塾の経営・運営に対しまして、格別のご支援・ご指導を頂き、重ねてお礼申し上げます。

　さて、晴れてこの日を迎えました塾生諸君、改めて卒塾おめでとうございます。
振り返ってみますと、入塾時の面接で

- 日本をより逞しい国にしたい
- 生まれ育った故郷をより元気にしたい
- 政治の目の届かないところに一灯を　点したい
- 社会的弱者に寄り添いたい

と、目を輝かせながら熱く語って入塾してこられた諸君の姿をよく覚えています。
　爾来、日々成長し逞しくなってゆく皆さんの姿は、私にとりましても大きな喜びであり、楽しみでもありました。
　いつの日か、これらの喜びや楽しみが私の人生において〝誇れる瞬間〟であったことを期待し、その実現を信じています。
　敢えて困難な道を選び、敢えて遠まわりをし、そこに身を置いて研修を続けてきた諸君にとって、決して平坦な道のりではなかったはずです。
　苦労して作り上げた〝かくあるべし〟という仮説が、足を運んだ多くの現場で全く異なる見解や結論が求められそのギャップに悩んだことも数多くあったと思います。
　一方、同じ志を持った仲間や組織との出会いに大いに意を強くした体験もあったでしょう。まさに〝光陰矢の如し〟様々な出会いは貴重な〝ご縁〟となり、見えざる資産となって身についているはずです。

　さて　松下政経塾を創設された松下幸之助は、明治・大正・昭和・平成と幾度かの不幸な戦争をはさみつつも日本の近代化が推し進められた、文字通り日本の激動期を生き抜いてこられた私達日本人の先哲であります。
　そして、卓越した実業家であると同時に日本の将来にまで思いを馳せた思想家でもありました。単なる思想家と違うのは、松下幸之助の傍らには常に事業という激しい現場があったということであります。

　94 歳の生涯で実に多くの足跡を残されておられますが 100 年前のパナソニックの創業、戦後焦土の中より始められたＰＨＰ活動、そして 1979 年（昭和 54 年）84 歳にして創設された松下政経塾、いずれも生涯の事業として取り組まれ、経営を続けてこられました。

　これら三つの事業には、各々経営理念がございます。
　表現こそ異なっておりますが

- パナソニックは「ものづくり」を基本として・・・
- ＰＨＰは理念づくりと実践で・・・

◦そして松下政経塾は、次代を担う人材の育成をもって・・・

松下幸之助が思い描かれ、その実現を心から願われた『人類の繁栄・幸福と世界の平和に貢献する』というものであります。

お亡くなりになられ 30 年程経った今日でも、生前残された 数々の「ものの見方・考え方」は

◦ある時は経営の心得として

◦ある時は広く人生読本として

◦またある時は国家や社会に対する提言として

今でも多くの皆様に感銘を与え続けております。

しかし、元号が変わる新しい時代を前にして、平成の 30 年間を振り返ってみますと、日本の相対的地位は著しく低下をしてしまっているのではないか、私達国民はそれに気づいていない。まさに、ゆでガエル状態で、いずれカエルは煮上がってしまうという極めて現実的な厳しい指摘もございます。

この様な状況下で 7 人の若者は巣立ってゆきます。

彼らが身命を賭して取り組まんとしているテーマは、激しい時代の流れの中でより複雑化し、多様化している国家の課題に「挑戦」しようとするものであります。

後程一人ひとりから、決意の一端を述べさせて頂きますが、それらの課題はいずれも一朝一夕に解決するものではありません。

塾生諸君においては、行き詰った際は松下政経塾の理念である塾是・塾訓・五誓を思い出し新たな素志貫徹を目指し、日々精進して頂きたい。

そして今までお世話になった多くの方達への「感謝」を決して忘れないで頂きたい。

本日は「挑戦」と「感謝」この二つの言葉を諸君に贈らせて頂きます。

ここでひとつご紹介をさせていただきます。

いつもですと、白か赤のバラの花ですが、本日はブルーの花を胸に付けています。

2016 年に九州を襲った大地震の直後、本日卒塾を迎えている 36 期生が中心となって現地に入り、復興のお手伝いをさせて頂きました。その際、被害を受けられていた家屋に掛けられていたブルーシートを加工して作られたものであります。

一ケ 2,500 円で販売し復興資金の一助として使われているとお聞きいたし私も胸に付けさせて頂きました。

なお本日は、塾生達が熊本に入った際、いろいろお世話をして頂いた九電テクノシステムズの鶴岡様と、パナソニックの電器店「株式会社 でんきのサントップ」代表取締役の石原様にも、ご出席を頂いております。その節は大変お世話になりました。

どうか本日お集まりの皆様におかれましては、退路を断って政経塾に入塾し新たな志を携えて巣立ってゆく 7 人の若者に対しまして、変わらぬご支援とご指導を賜ります様お願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げ、私の挨拶とさせて頂きます。

来賓祝辞

小田　尚

（読売新聞東京本社 調査研究本部 客員研究員/評議員）

おはようございます。平成最後の卒塾式でご挨拶する機会をいただきましてありがとうございます。

今年は松下政経塾設立 40 年に当たりますが、冷戦崩壊後 30 年になります。1989 年（平成元年）の秋、ベルリンの壁が破壊され、翌年のドイツ統一、それから 2 年後のソ連の崩壊につながりました。日本の政治は、東西対立、それからイデオロギー対立の解消を受けて、早くも 1993 年（平成 5 年）に自民党は政治改革を巡って分裂しまして、七党一会派による細川内閣が登場しました。この衆議院選挙で松下政経塾出身者、その多くはその 1 年前の 92 年に結成された日本新党、この党首・細川さんは松下政経塾の評議員でもあられまして、かなり新人をリクルートしたという経緯もあるんですが、そこで松下政経塾から衆議院に大量に進出いたしました。

松下政経塾はその名を轟かせたわけですが、さらなる飛躍のジャンプ台になったというふうに思います。その象徴が民主党政権の野田佳彦前総理であります。野田さんはこの前、平成 30 年を振り返る記者会見を日本記者クラブでした時に、「素志貫徹」という言葉を書かれていました。そういう意味でいうと、冷戦崩壊というのと平成の政治というのが政経塾にとって非常に大きな意味を持ったんだと思います。

ただ、その成功体験がその後、政治活動にゆるみをもたらしていないか、組織運営を軽視しているんじゃないかというような点検が必要かというふうにも思います。その後 3 回目の政権交代を経て、第 2 次安倍内閣自公政権が発足しました。長期政権と言われていますが、平成の最後の 5 分の 1 に当たるのかと思います。そこに政経塾出身の高市早苗さん、松野博一さん、小野寺五典さんの 3 氏が閣僚として入閣されて、名を連ねております。現在 34 人かと思うんですが、松下政経塾出身の国会議員の方は与野党に分かれています。政経塾自体が相当、保守的な教育をしていると思うんですが、そのように分かれているのは、今申し上げたように冷戦の崩壊でイデオロギー対立が終わったことで、安保政策、社会保障政策などで与野党の政策に大きな隔たりがなくなったからだというふうに思います。96 年（平成８年）から小選挙区制が導入されて、すでに議席がある与党側から出馬しにくいということも影響しているかと思います。

今の安倍政権がこの平成の時代に成した、ある意味功績というのは、2015 年（平成 27 年）の戦後 70 年談話と平和安全法制の成立だと思います。70 年談話、池田政権が表明してきた痛切な反省が心からのお詫びを示して、戦争や侵略を再び繰り返さないと誓ったものです。結果的に第二次大戦をめぐる歴史認識をめぐる対立を終わらせたというふうに思います。坂元一哉・阪大教授の言葉を借りれば、「大戦の精神的な整理を済ませた」ということになるかと思います。

集団的自衛権の行使を条件付きで可能にした平和安全法制というのは、日米同盟を一層進化させました。2 年後の 17 年に北朝鮮の――北朝鮮というのは冷戦の残滓と言ってもいいわけですけれども――核ミサイル問題が起きましたけれども、平時の間にこの法律を整備したということが、非常にいいタイミングかというふうに思います。日米同盟ポスト平成の日本の安全保障政策の基盤になっていくというふうに言えると思います。

この「冷戦後」の平成時代が終わりますと、次は「ポスト冷戦後」の時代に入ってきます。安直に「新冷戦」という言葉を使いたくありませんが、これからのキープレーヤーはまさに中国であります。中国はアメリカが独占してきたコンピュータによる情報インフラの社会に、「中国製造 2025」を掲げて挑んでいます。先端技術の分野での競争は非常に激化し

ております。共産党独裁の下でキャッシュレス社会、ペーパーレス社会を実現させまして、顔認証によるかなりの監視体制もつくっていまして、今、中国で歌手とか、そういうコンサートが開かれると、2 人か 3 人ぐらい指名手配の人を捕まえるんですね。それは顔認証です。

そういう中国というのは今、どんどん異様な形で大きくなってしますが、軍事大国でもあります。中国が台湾に 5 年以内に侵攻するのではないかというのは、日本の防衛関係者の中でもささやかれているところであります。平成の間は大国同士の戦争はなかったのですが、米中衝突がもしあるとすれば、必ず日本も巻き込まれます。というよりも、中国が尖閣に上陸する可能性もあります。これは「空母いぶき」という、これから上映される映画の世界でもあるのですが、安倍総理は麻生副総理からこの原作になる漫画をもらって、これを読んでおられるようですが、ただ、平時の間にグレーゾーン事態の準備をする必要もあるかと思いますが、このへんは皆さんの先輩である政治家の方に頑張っていただきたいというふうに思います。

国内に目を転じますと、これは東大の谷口将紀さんの研究によりますと、既存の政治から取り残されていると感じている人ほど、グローバリズムにリスクを感じ、技術革新にも不安を覚えがちです。そういう人たちはどちらかというと野党に投票する傾向がありますが、この野党が既存の政党システムで不満が吸収できればいいということなんですが、これは今まではできていますが、これが合理的に処理できなくなると、自分の不満を既得権益層とか移民のせいにするということが起きたり、政治局面を一挙に変えてくれるような指導者の登場を期待したりするということにもなります。

その意味でいうと、反既存政治、反既成政治がポピュリズムに転化する可能性があるということだと思います。この政治をどういうふうに安定させていくかということが松下政経塾で学んだ皆さんに、これからの時代をうまく担っていかれるよう期待したいところであります。

本日はご卒塾おめでとうございました。

卒塾生決意表明

大竹香代（おおたけ かよ）（36 期生）2017 年 3 月 31 日付 早期修了

（参議院議員　渡辺猛之事務所　スタッフ）

松下政経塾に入塾してからの 4 年間、時に多くのアドバイスを頂き時にお支えくださりまして大変お世話になりありがとうございました。また、一度仕事を離れて仲間と共に勉強に専念させていただく機会をくださった塾主には、感謝を言い尽くせないくらいです。基礎課程 2 年間を終えた時点で渡辺猛之事務所の秘書となり塾を離れておりましたが、私にとっての実践課程ともいえる期間でした。これからもいただいたご恩を社会にお返しできる人間になれるよう、頑張ってまいります。

大久　拡（おおひさ　ひろむ）（36 期生）

一瞬の出来事のように過ぎた 4 年間でした。日本人の働き方を変えることを志して入塾した私は、働く現場から理想的な働き方を実現することを目指して研修を行ってきました。私が掲げる「自他を高め合いながら豊かに働ける日本」のビジョンには、仕事とは自分一人ではなく誰かと共に価値を創り出すこと、という研修で培った私の思いを込めています。このように思い至った背景には、志と共に自分自身に向き合ったことも強く影響しています。政経塾から頂いた時間の中で、自分自身の働き方やあるべき姿を何度も考えさせられました。チームで進めているプロジェクトに関連して後輩に無理なお願いをする自身を振り返っては、働き方を変えようとしている自分自身が最も理想から遠い存在ではないかと反省していました。こんな私をこれまで温かく見守り、ご指導頂いた皆さま、政経塾の諸先輩方、職員の皆さま、そして懲りずについてきてくれた後輩に心より感謝申し上げます。私は茶道を通して禅の考え方を伝えるサウザンド・レストを起業し、志とビジョンの実現に邁進して参ります。皆さまから頂いたご恩を何倍にもして社会にお返しできるよう尽力致します。

土屋正順（つちや せいじゅん）（36 期生）2018 年 10 月 31 日付 早期修了

（地元千葉県市川市で政治活動中）

4 年間、ご指導いただいた皆様に心より感謝申し上げます。いよいよ志の実現に向けた実践が始まります。これまでご支援、ご指導いただいた皆様へのご恩は、地元である市川市の活動の中で、汗を流してお返ししていきます。社会的包摂のある社会を必要とする時代は既に到来しているという強い危機感があります。一人でも多くの方々の命と生活のお力になれるよう、精いっぱい歩んでいきます。引き続きのご指導、ご鞭撻をいただけますよう宜しくお願い申し上げます。

深作光輝（ふかさくこうき）ヘスス（36 期生）

4 年前に外交に対する想いを胸に政経塾の扉をたたきました。振り返ればあっという間の 4 年間、自主自立の研修を求められる塾生として、自らの研修を改めて振り返ってみますと、様々な人に支えられながら研修していたことに気付かされます。志の実現はこれからが本番です。一人の塾員として、幸之助塾主の思いを託された一人の若者として、今後も自らの人生を我が国日本の平和・繁栄・幸福のために捧げてまいりたいと決意を新たにしています。今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

渡邉典喜（わたなべのりよし）（36 期生）2017 年 9 月 25 日付 早期修了

（立憲民主党栃木県連副代表）

早期卒塾したため 2 年半の塾生生活でしたが、多くの皆様に支えて頂きました。この場を借りて御礼申し上げます。誠にありがとうございます。現在は立憲民主党栃木県第 1 区総支部長として地元である宇都宮を拠点に「次の世代に自信をもって引き渡せる日本国」の実現に向け、政治活動を続けております。楽とは言えない道ではありますが、塾時代の研修で得たものを胸に刻み、周囲への「感謝」を心がけながら、「素志貫徹」の想いで歩んでおります。引き続きご指導の程よろしくお願い申し上げます。

田中　厳（たなか　いつき）（38 期生）2019 年 3 月 31 日付 早期修了

（一般財団法人グローカル交流推進機構　4 月より所属予定）

2 年間未熟な私を受け入れ、教え導いてくださった政経塾というこの場、そして関係者の皆様方に心より感謝申し上げます。おかげさまで、無事に卒塾の日を迎えることができました。22 歳で入塾した私にとって、塾生も含めて、周囲の方々すべてが人生の先輩であり、その経験に裏打ちされた言動一つ一つが私にとって大きな学びの糧でした。

4 月以降は一般社団法人グローカル交流推進機構に所属し、トヨタモビリティ基金による「地域に合った移動の仕組みづくり事業」の各地域での事業管理やアドバイスに携わります。この国に住むすべての人に、あらゆる経済活動・人間活動の基盤である「移動」が保障され、環境・経済両面から効率的かつ持続可能な交通体系が実現されるよう、微力ながら取り組んでまいります。